

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 12 日現在

機関番号：14401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2016

課題番号：25862189

研究課題名(和文)きょうだい病気や障害をもち入院する子どもへの影響と支援

研究課題名(英文) Behavioral and emotional problems and personal growth among siblings of hospitalized children

研究代表者

新家 一輝(Niinomi, Kazuteru)

大阪大学・医学系研究科・講師

研究者番号：90547564

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：母親の認識を通して得た、子どもの入院に伴う、その入院する子のきょうだいの人格的成長の構造を解明し尺度開発を行った。尺度はSiblings Personal Growth Scaleと命名され、全22項目で Altruistic behavior、Development of emotional and social skills、Self-Controlの3因子構造が抽出され、今後の実用可能性への示唆を得た。

母親と、母親以外で子どもの入院中にきょうだいの主な世話役を担っている方それぞれが認識するきょうだいの情緒と行動の問題、人格的成長の程度について調査し、関連する属性背景因子について示唆を得た。

研究成果の概要(英文)：The structure of the Siblings Personal Growth Scale (SPGS) was identified and the future feasibility of the scale supported. SPGS is 22-item parent-report measure of siblings' personal growth regarding their brother's or sister's hospitalization. The scale divided across three factors, 1) "Altruistic behavior" with 10 items (e.g., showed sympathy, showed kindness and warmth, showed empathy); 2) "development of emotional and social skills" with 8 items (e.g., increased emotional depth, willingly interacted both with people and the wider society); and 3) "self-control" with 4 items (e.g., stopped using spoiled or selfish speech, exhibited more patience). The SPGS is appropriate for use with 2 to 18 years.

Investigated predictors of the siblings' personal growth and behavioral and emotional problems during the hospitalization periods through the perspectives of mothers and the main caregivers of siblings in the period of their brother or sisters hospitalization.

研究分野：小児看護学

キーワード：きょうだい支援 子どもの入院 きょうだいの人格的成長

1. 研究開始当初の背景

近年、小児を対象とする臨床では、母子関係の重要性が認識され、患児と母親の精神的な側面を考慮し母親が入院に付き添うことを必要とする場合が少なくない。その一方で、病気や障害で入院する子どものきょうだいに様々な負担がかかることが指摘されるようになってきた。さらに、家族機能の変化や危機対応能力の脆弱化が指摘される現在、きょうだいを受ける影響は大きくなっていることが考えられる。それにも関わらず、きょうだいへの支援体制は、医療の目が届きにくいこともあって十分には整っていない。

これまで我々は、患児の入院に付添う母親の認識を通して、きょうだいへの影響について、情緒と行動の問題の程度とそこに関連する属性・背景因子について、また、患児の入院という逆境の中でがんばり努力することに伴ってきょうだいに起こる人格的な成長についての様相を調査・分析し、子どもに対する支援のあり方に示唆を得てきた。このような我々の取り組みに限らず、先行研究では、患児の入院に付添っているためにきょうだいの状態を直接は把握しにくい状況にある可能性がある母親の認識を通した子どもへの影響についての調査研究が取り込まれるようになってきた。しかし、患児の入院中にきょうだいの主な世話役を担い、一番身近で客観的に子どもの状態と変化を把握し得ている家族員の認識を通したきょうだいへの影響について調査したものは非常に少ない。また、きょうだいへの対応に関して、きょうだいの主な世話役を担う家族員のニーズについて調査し明らかにしたものも非常に少ない。さらに、きょうだい自身の認識を通した患児の入院に伴うきょうだい自身の体験について調査しその様相を明らかにしたものも少ない。

以上より、きょうだいのニーズを明らかにし支援のあり方を検討していく上で、患児の入院中のきょうだいの主な世話人や子ども自身の認識を調査し、これまで取り込まれてきた母親の認識を通して得られた示唆を統合し、多角的にきょうだいへの支援のあり方を検討していく必要がある。

2. 研究の目的

母親の認識を通して得た、子どもの入院に伴う、その入院する子のきょうだいの人格的成長の構造を解明し尺度開発を行う。

研究

子どもが病気や障害で入院することによるきょうだいへの影響について、母親と患児の入院中に子どもを主に世話する家族員それぞれの認識を通して調査し、子どもへの影響と変化の様相、さらに影響の程度と属性・背景因子との関連性を明らかにする。また、きょうだいへの対応に関するきょうだいを主に世話をする家族員の取り組みとニーズを明らかにする。

3. 研究の方法

研究

同意を得た全国 63 の医療機関にて、入院児にきょうだいがいる母親 279 名を対象に無記名時期式質問紙調査を行った。先行の Krippendorff の手法を用いた内容分析によって得たきょうだいの変化 26 項目について 4 件法により調査した。調査結果について因子分析を行い、その構造を解明し、信頼性・妥当性の検証を行った。

研究

同意を得た全国 33 の医療機関にて、入院児にきょうだいがいる母親と、入院期間中に母親に変わってきょうだいの世話を主に担っていると母親が判断された方を対象に、無記名自記式質問紙調査を行った。調査内容は、属性背景因子、研究 . で開発した Siblings' Personal Growth Scale (SPGS) と、Child Behavior Checklist (CBCL)、きょうだいに対して取り組まれていることや尽力されていること、きょうだい支援に対する要望について、母親と主な世話人それぞれから回答を得た。

4. 研究成果

研究

26 項目についての年齢別合計平均得点をもとに 2 歳～18 歳のきょうだいをもつ母親 254 名からの回答を因子分析の対象とした。母親の平均年齢 34.83 ($SD = 5.23$) 歳、きょうだいの平均年齢 6.78 ($SD = 3.56$)、性別は男児 135 (53.6%) 名であった。83 (33.2%) 名のきょうだいは自宅を離れ祖父母宅など世話人宅で生活をしていた。天井効果床効果、IT 相関を確認し、探索的因子分析(主因子法・プロマックス回転)を行った。スクリープロットと固有値をもとに、最も解釈が妥当であった 3 因子を採用し、因子負荷量 .40 未満の項目を除外しながら分析を繰り返した。最終的に残った 22 項目が「Siblings' Personal Growth Scale (SPGS)」と命名され (回転前累積寄与率 = 63.9%、因子間相関 = .60-.72) Altruistic behavior、Development of emotional and social skills、Self-control の 3 因子からなるその構造が明らかとなった。尺度の信頼性・妥当性について、高い信頼 ($\alpha = .897-.940$) と、KMO = .940、Bartlett 検定 $p < .001$ より標本妥当性を確認し、小児看護学と臨床心

理学の専門家からなる研究チームで分析し内容妥当性を確認した。基準関連妥当性の検定に用いた Child behavior checklist の内向尺度とSPGS係数は、4歳～11歳の男児群で、217 ($p = .029$)であったが、他の年齢・性別等は有意な相関はなかった。

母親と、母親以外で子どもの入院期間中にきょうだいの主な世話人を担っている方それぞれが認識するきょうだいの情緒と行動、人格的成長の程度について調査し、関連する属性背景因子を分析した結果について、現在学術誌への論文投稿を実施している最中である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1 件)

Development of a scale to measure personal growth after experiencing a sibling's hospitalization and one's

mother rooming-in, Kazuteru Niinomi,

Rika Kurahashi, Akiko Yamada, Chieko

Fujiwara, Journal of Japan Health

Medicine Association, 24(4)

301-312, 2016年01月

[学会発表](計 4 件)

Personal growth and behavioral and emotional problems among siblings of hospitalized Japanese

children, Kazuteru Niinomi, Minae

Fukui, Yuka Ikegami, Wataru Kiwado,

Yuichi Nakayama, Yuko Takashima,

Chieko Fujiwara, 19th East Asian Forum

of Nursing Scholars, 2016年03月

The effect of sibling hospitalization on Japanese children's personal growth and behavioral and emotional difficulties from the caregiver perspective, Minae Fukui, Kazuteru Niinomi, Yuka Ikegami, Wataru Kiwado, Yuichi Nakayama, Yuko Takashima, Akemi Yamazaki, Chieko Fujiwara, 19th East Asian Forum of Nursing Scholars, 2016年03月

病気や障がいのある子どものきょうだい、家族が示してくれる看護のあり方, 川上あずさ, 新家一輝, 池田友美, 山田晃子, 第34回日本看護科学学会, 2014年11月, 会議報告/口頭発表

入院中の子どものきょうだいに対する入院児の病状説明の実施と、属性・背景との関連, 池上侑花, 新家一輝, 高島遊子, 福井美苗, 日本小児看護学会第26回学術集会講演集, 197, 2016年07月

[図書](計0件)

[産業財産権]

出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

新家 一輝 (NIINOMI, Kazuteru)

大阪大学大学院・医学系研究科・保健学専攻・講師

研究者番号: 90547564

(2)研究分担者 ()

研究者番号：

(3)連携研究者 ()

研究者番号：

(4)研究協力者 ()